

第1回市民との意見交換会における意見等に対し、議会において検討や確認等をするとした項目

NO	会場	市民からの意見・質問	会場において意見・質問に議会が応えた内容	検討確認	議会で検討や確認をした結果
1	長浜	高齢者の独り暮らし対策はあるが、二人暮らしに対する施策はないか。	市には避難・支え合いの支援制度があります。自治会で見守りをされている例もあり、自助、協助により、みなさんが助け合う精神を広めることを行政が応援していく姿勢で、議会も提言していきたいと思っています。	健康福祉	見守り支えあい制度は、地域で要援護世帯の避難や見守りの支援を推進するもので、ひとり暮らしや高齢者世帯などの基本的な情報のほか支援に必要な対象者情報を自治会と市・社協が共有しあうものです。世帯地域ぐるみの体制づくりへの活用を自治会や民生委員に働きかけています。 日ごろより地域包括支援センターでは、高齢期の生活相談を受け付け、助言などを行っています。さらに85歳以上世帯への全数訪問などを通じ、見守り強化に努めています。 また、介護保険サービスや衛生材料支給などの事業により、介護が必要となった場合の要介護者本人の支援とともに、配偶者や家族の負担軽減につながるようにしています。
2	高月	市もゲートキーパーが120人位おられますが、機能しているのか。全国平均が21.3%で滋賀県が23.6%で前年度21位くらいでしたが、ワースト14に上がってきている。	ゲートキーパーを養成すると云う様な内容の目的に沿って現在は試行をさせて頂いていますが、県からの先ずは指示の中でやっている内容だと私は認識しているのですが、今後は大事な事業でございますので執行部ともう一度検討してご報告できる様な内容にしたいと思います。	健康福祉	ゲートキーパー養成事業の目的は、様々な悩みを抱えている人を自殺に向かわせないために、自殺のサインに気づき、話を聴き、関係機関につなぐなどの適切な対応を図ることができる「ゲートキーパー」の役割を担う人材養成を、民生委員、健康推進員、事業主等広く市民対象に講座を実施するものです。 養成講座を受けた人には決まった役割はないものの、講座で学んでいただいた知識などをもとに、それぞれの家族や近隣、地域で自殺のサインを出している人に気づくとともに、必要な人は関係機関につないでいただくことを期待しています。 養成数については、平成23年度 258人、平成24年度 675人、平成25年度 290人 合計1,223人です。
		2病院で、カロリー計算は間違っているし、流動食しか食べられない人に千切りキャベツとツナの缶詰を出しておられます。退院前に食事指導を順番に受ける訳ですけど、逆に説教した訳です。味のついたものに調味料付けてみたり、具材の素材のおいしさがあるにも関わらずソースとかそんなもん付けて、私はこんな辛いものになぜ付けるのかと云った事もあります。漬物でも塩っ辛くて食べられないと云うものもありました。病院の対応ですけど、長浜病院と湖北病院とは同じ市立病院なのに、ぜんぜん看護の仕方も対応も違いますし、湖北病院へ入院したくないと云う気がおきました。	病院内での食事の面でございますが、今聞いたのが初めてでございますので病院事業を健康福祉の方で受け持っていますので、そう云うことを確認させて頂きご報告させて頂きます。		【病院食について】 ・市立長浜病院 病院の食事は、院内食事規約に基づき一般職(普通食、軟菜食、流動食など)と特別治療食(糖尿病食、腎臓透析食、肝臓食など)を、主治医の指示のもと提供しており、エネルギー量・たんぱく質量・脂質量・食塩相当量等に基づき作成しております。今後も、安心・安全でおいしい食事の提供を目指し、思いやりの心のかよう栄養管理に努めてまいります。 ・湖北病院 病院の食事につきましては、医師の指示を基に個々の患者さんに合った必要な栄養量を計算してお出ししており、流動食の指示のある患者さんに固形のものをお出しする事はありません。調理につきましては、塩分量などは計量して使っており、栄養士と調理師が共に味見を行い気をつけておりますが、ご意見を参考に今後の献立作りや調理に活かしてまいります。 【病院看護について】 ・市立長浜病院 「やさしさを原点に気づきと思いやりのある看護を実践します」を基本方針に、患者さんに寄り添ったぬくもりのある看護の実践に努めています。今後も、看護水準の向上はもとより、心のこもった看護を目指してまいります。 ・湖北病院 看護の方式につきましては各病院ごとに幾分違いがあると思いますが、看護の内容につきましては大きな違いはないと考えております。しかしながら、ご指摘いただいた点につきましては今後看護局内で協議し、市立病院として地域の皆様に信頼される看護の内容にしてまいります。
3	長浜	黒壁改修工事をしているが、重要文化財級の建物であつたらしい。重要文化財級の建物を北海道に移築されるのか。重要な観光資源になる物件であり、チェック出来ていない。この点も聞きたい。	事実関係等をすぐに確認します。	産業建設	(株)黒壁によるリノベーション事業における「黒壁美術館」の改修に関するご指摘かと思えます。この工事で、茶亭門について「文化財的な価値があるのでは」とのご指摘をいただき、市文化財保護センターに鑑定を依頼しました。その結果、文化的価値は考えにくいとの結論であり、その旨を門の所有者にお伝えしたうえでお引取をお願いしたところ、所有者のご意向により取り壊すこととなったものです。 なお、他に建物が移築された事実などはありません。 町家の風情を残し、活かす活動等が行われている中で庭などに松枯れ、建物への白アリ被害などの事情で手が加えられています。
4	長浜	観光行政について、市は活発にされているが、予算立てについてどの位観光行政に対する予算を組まれているのか関心を持っているのでお聞きしたい。何故かと言うと、観光に対して税収が薄い。他市では十分反映し難いと聞いている。どの様に観光が発展しても、税収には行きつかないのが現状ですが、その辺をお聞きしたい。	予算についてはこの場では把握しきれていないので、宿題として預かり、何らかの形で公表させて頂きたいと思えます。	産業建設	観光に関する予算額は、平成24年度で約164,000千円です。 当市の年間観光入込客数は平成24年で約670万人であり、入湯税や市営駐車場の利用により約62,000千円(H24年度)の収入が生まれます。

第1回市民との意見交換会における意見等に対し、議会において検討や確認等をするとした項目

NO	会場	市民からの意見・質問	会場において意見・質問に議会が応えた内容	検討確認	議会で検討や確認をした結果
5	長浜	1点目、長浜の観光において、心の健康と肉体的健康を位置付け、買い物散策の黒壁とか文化遺産の散策ということで、心を癒せる。また、肉体的な事は地産地消で、地域のおいしい物でもてなすことや、滞在型観光で、年1回位は家族の健康とリフレッシュの中で、湖北・長浜に行こうというイメージアップ。オアシス特区構想は全国どこにもありません。長浜からモデル的なものを作って元気あるところを見せて欲しい。 2点目、電柱の地中化で駅前通りが良くなります。その時に観光の意味で、石田三成と秀吉との連携で、例えば「せんなり出世街道」とかいう名称にしてイメージアップしてはどうか、歴史的なことを活かしながら全国に発信できるようにして頂きたいという思いがあります。	今、やりますとは言えませんし、行政とも協議をして対応させて頂きたいことだと思います。	産業建設	“健康”は、団塊世代の「キーワード」です。そこで、市では1. 肉体の維持(運動)と2. 人との交流(つながり)を目的に、浅井三姉妹街道ウォークなどのウォークイベントを開催しています。 平成25年度からは、京都大学や立命館大学、健康振興課などと連携して、ヘルスツーリズムに取り組んでいるところです。 歴史的なことを活かしながら全国に発信する事業については、平成26年3月15日に石田三成公に関連する団体間の親交と交流および、全国の三成公縁の地に向けた発信を目的とした「三成会議」を長浜市、米原市、彦根市の石田三成公ゆかりの3市が発起人として発足しました。今後は、「石田三成公に逢えるまちづくり」を全国に展開していく予定です。
6	長浜	駅前道路側で、駐車場を有しない店においては、お客が買い物中、路上駐車をしており、バス等が対向出来なくなっている。事故とか起きない限り警察も対応しない状況で気になっている。駅前通りの通行がスムーズに出来るような環境にして頂きたい。	ご意見のあったことを、都市建設部に伝えていきます。	産業建設	担当課、警察等に改善するように申し入れました。
7	高月	駅前から市役所へ行く道の両側に街路樹ですが、丸坊主になって一枚の葉もついていないんですが、あれはどこであのようになったかこれだけお伺いしたい。	市としても私たちとしても、気になっていますが、時間をいただいて確りと、議会としても答弁させていただきたいし、県のほうにも何故このようなことになっているのかということを確認させていただきます。	産業建設	道路管理者である県に問い合わせたところ、落葉による近隣住民の方からの苦情が多く、枝の伐採をせざるを得ないのが現状とのことです。 今後においては、緑化等の観点から、枝の伐採方法や伐採時期について検討をしていきたいとのことです。
8	長浜	中学生の鞆は、大体8～10kg位であり、成長期には良くないのではないかと思いますことや、教室のロッカーが小さすぎる、机も小さいので狭い所でノートを書いている。そういう事情を教育委員会は知っているのか。子どもの身体も昔より大きくなっているのに、昔の机を使っていることを気に掛けて欲しいと思います。	改善出来るように学校等には伝えたいと思います。	総務教育	中学生のカバンについては、学校指定はなく自由となっており、スポーツバッグやリュックサックなど個人に合ったカバンで通学をしています。教科書や体育用具など、中に入れる物の量によりカバンが重くなることもあると思いますが、小分けにして両手に持つなど工夫をして重さの対応をしていただきたい。 教室のロッカーの大きさについては、教室の大きさ(建物の大きさ)によって決まってきており、備え付けられた物です。なお、クラスによっては、一人がロッカーを2ヶ所使用できる場合もあるということです。 机につきましては、Aサイズに対応した新JIS規格の机を、更新計画に基づき更新しているところであり、中学校においては、既に新JIS規格の机への更新を完了しています。机の天板のサイズは小学校も中学校も同じサイズ(規格)ですが、体の大きさにより高さ調節が可能な机を使用しているとのことです。
9	高月	2学年に亘って複式学級が発生した場合に、学校を統合していこうと云う方針が、教育長が勝手に云われているのか分かりませんが、どう云う根拠でこう云う事になっているのか、理解できませんけど、根拠が、複式学級が2学年に亘ってなった場合に、一つの線が引かれていますが、その根拠をお聞かせ願いたいと思います。	ご質問の根拠についてはまた改めて、お答えをさせて頂くと云う事で如何でしょうか、よろしくをお願いします	総務教育	複式学級の編制については、「公立義務教育諸学校の学校編成及び教職員定数の標準に関する法律」によって1年生を含むときは8人以下とし、それ以外では、16人以下という国の基準が示されています。 複式学級での運営は、学習内容だけでなく時には教科も異なる2学年が1つの教室で学習することとなり、その教育効果は大変懸念されているところです。長浜市学校規模等適正化検討委員会から平成20年3月31日付で出された答申にも「小規模校園における課題が顕著な場合には、統廃合も視野に入れた検討が望ましいと考えます。とりわけ、複式学級編成等の可能性がある場合には、早急に検討をすべきです。」と記されています。 複式学級、小規模学級を回避することは、学力面からも社会性の育成の面からも重大な課題であり、統合という方法も検討せざるを得ない選択肢であると考えます。 それでも教育長の答弁は、地域、保護者の声を十分に聞くということが前提になっていますので、決して「複式学級が2学級になったら、統合」と性急に結びつけてしまうことではないとのことです。
10	長浜	意見交換会の開催日数ですが、2会場になった理由はなにか、議員が大勢いるのだから、せめて旧市町単位程度でやらないと集まって頂けないかなと思う。	要領により、市内2か所で開催すると設定しています。今回は第1回目であり、今後、回を重ねる毎に検討してまいります。	議 運	第2回目以降、開催会場を増やしてまいります。
11	長浜	地域に議員が出向いて、膝つき合わせて身近な意見交換会にして欲しい。		議 運	今後、公民館等の身近な施設での開催を進めます。

第1回市民との意見交換会における意見等に対し、議会において検討や確認等をするとした項目

NO	会場	市民からの意見・質問	会場において意見・質問に議会が応えた内容	検討 確認	議会での検討や確認をした結果
12	高月	余呉は高齢化率が高く、山間へき地へ行くと買い物が出来ない方がいることから、買い物難民解消のために「湖北水源の里づくり財団」で国の補助を頂き、生活用品を売ると言う方法(移動コンビニ)を取っております。また、お年寄りの為にガソリンを容易に手に入れられる様に「地域づくり協議会」が経営する事を考えています。我々財団も一緒になってやっているが、行政の応援が頂けないことが非常に悩みの種です。地域に密着したと云いますか、山間へき地政策と云うものをどの様に考えているのかお答え頂きたいと思えます。	へき地の問題は全国的な問題であり、地域と自助また共助、公助といった助け合いが必要だと思えます。全国の先進事例を参考にしながら議会等で当局に提案していきたいと思えますのでよろしくお願い致します。	健康福祉 総務教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでから買物に不安を抱える高齢者等に対しては、ホームヘルパーや民生委員などが支援にあたっていますが、事業者や団体が行う宅配や移動販売などのサービス展開が進んできていることを踏まえ、これらの情報を集約したパンフレットを作成して地域の支援者による助言を円滑にし、日常の買物に困難を感じる人と各種サービスとの橋渡しをすすめていきます。</li> <li>昨今の給油所を取り巻く状況は非常に厳しく、経営に行き詰って閉鎖される所もあり、地域住民の生活にも大きく影響しています。こうした中、JA北びわこ中之郷給油所閉鎖に当たり、余呉地域づくり協議会により設立された合同会社が、過疎高齢化が著しい余呉のことを思い給油所を設立されたことは、地域住民からも高く評価されていることと思えます。しかし、余呉地域には他にも民間の給油所が営業されていることもあり、市としましては、これらの給油所事業に対しては均等に対応するしかなく、特定の給油所のみへの個別支援は難しい状況にあります。</li> </ul>
13	高月	余呉には倒壊家屋、空き家がものすごく増えてきている。人口が過疎化して空き家が今増えて、その空き家が今倒壊しかけているものがたくさんあります。余呉町以外にもあるとおもいますが、何らかの考えを持っているのか質問したと思えます。	空き家対策につきましては、現在企画課で長浜市内の空き家調査をされ、約2,000軒あるとの市の答弁でした。現在、全国各地で「空き家適正条例」が制定されており、当局も空き家をそのように対応していくのか現在検討を進めていると思えます。	総務教育	空き家には利用可能なものから廃屋となっているものまであり、そこで発生する問題も多岐にわたることから、今までは課題・問題の状況に応じて各部署が対応していました。しかし、空き家実態調査の結果、地域による特徴はあるものの市内全域で利用可能な空き家から廃屋となった空き家までが見られたことから、個別に対応するのではなく、窓口を一本化するなど、空き家に関する施策を総括しながら取り組んでいきます。